

施策評価調書(28年度実績)

施策コード II-4-(2)

政策体系	施策名	おんせん県おおいたの地域磨きと観光産業の振興	所管部局名	企画振興部	長期総合計画頁	113
	政策名	人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進	関係部局名	企画振興部、生活環境部、商工労働部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④	⑤
取組項目	観光人材の育成・確保	おんせん県ならではの素材磨きによるブランドイメージの確立	観光消費の増大につながるサービスや商品の開発促進	観光関連産業の持続的成長と雇用拡大	景観の保全・再生とツーリズム基盤の整備

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		28年度			31年度	36年度	目標達成度(%)											
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125							
i 観光入込客数(千人)	①②③ ④⑤	H25	17,563	19,000 (H27)	20,587 (H27)	108.4%	20,150 (H30)	20,850 (H35)												
ii 観光消費額(億円)	③	H25	2,072	2,160 (H27)	2,146 (H27)	99.4%	2,357 (H30)	2,564 (H35)												

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i 達成	国内外に向けた情報発信を強化するなど、「大分県ツーリズム戦略2015」の着実な推進に努めたことにより、目標値を達成した。		達成
ii 概ね達成	ブランド力向上を図るとともに、地域資源を活用した様々な商品の開発を行うことにより、目標値を概ね達成した。		

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・観光・地域づくりを担う人材の育成を目指すおおいたツーリズム大学の修了生が246名となった。
②	・天然記念物を含む自然環境の保全と人々のくらしの関係について考える「自然というフォーラム」をH29年2月に開催し、姫島村・豊後大野市の両地域のジオパークの魅力情報を発信した。
③	・地域の観光資源の魅力を生かした地域企画商品を旅行商品販売サイトで販売した。
④	・観光関連産業を対象としたセミナーや研修を開催し、生産性向上に関する意識啓発や人材育成を図った。また、企業の自主的な取り組みに対して支援を行うことにより、生産性向上の取り組みが推進できた。
⑤	・景観資源を活用し、観光振興を促進するため、展望台などからの眺望を阻害する樹木を伐採するとともに、魅力ある景観の保全・活用を図るためのセミナー等を開催した。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(28年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	29年度の方向性	
①③	観光地域磨き推進事業	35,946	A	継続・見直し	19
②	おおいたジオパーク推進事業	34,744	A	継続・見直し	77
④	サービス産業生産性向上支援事業	44,477	B	継続・見直し	124
⑤	(公)道路改良事業	17,000,647	-	-	200

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

<p>○第3回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (H28.7)</p> <p>・観光産業について、最終的に新たな産業や雇用、定住に結びつくのかといった壮大なビジョンを持って取り組むことが重要。東九州自動車道の開通により大都市とのネットワークも強化されたため、地産地消、地産地食、地産外商等をキーワードに、開通をどのように活用するか、知恵をだし汗をかくかが大事。</p>	<p>○第4回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (H28.11)</p> <p>・阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクトにより多くのインバウンドが訪れると思うが、自然環境や地域住民への気遣い、マナー等もしっかり情報発信していく必要がある。</p> <p>・また、海外誘客を受け入れる県民自身も成長しなければならず、おもてなしの心は当然として、直に接しない地域住民、子ども達も自分の地域を知り、自然や暮らしに誇りを持つ人材になる必要がある。</p>
--	--

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「大分県ツーリズム戦略2015」にある戦略の着実な推進に努める。 ・おおいたツーリズム大学等により観光・地域づくりを担う人材の育成を引き続き行うとともに、観光案内所等の連携を促し広域観光案内体制の強化を行う。 ・大分県ならではの各地の素材磨きを実施し、体験型商品などの造成を促すことにより、観光消費額のさらなる増大を目指す。 ・サービス産業の生産性向上を図るため、引き続き観光関連産業に焦点を当て、業務の効率化はもとより、付加価値を高める取り組みを推進する。